

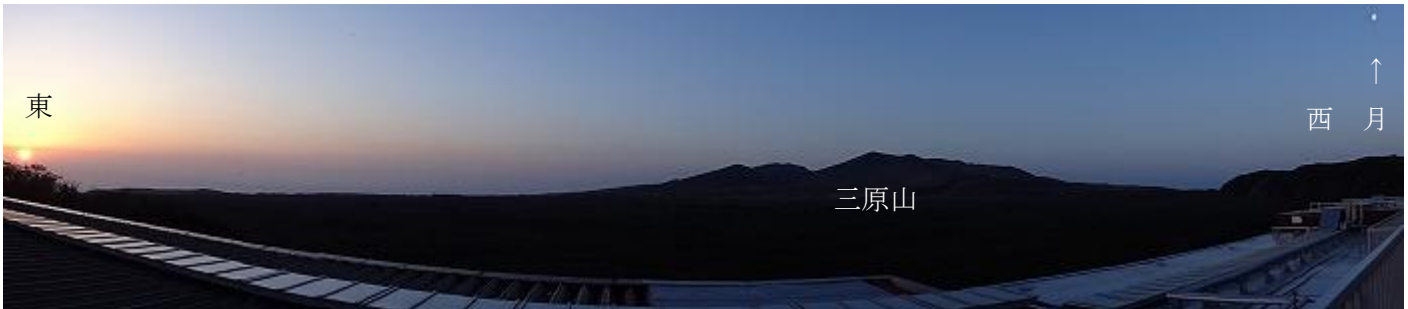
# 2023 年 3 月 11 日 (土)

## 伊豆大島 三原山 (758 m)

～Report by 高橋(雄)～



堀さん、池戸さん、私の伊豆大島リベンジ二日目。 今日は三原山に登る。  
朝 5 時に目が覚めた。温泉に入ったあと、屋上テラスに出てみた。



6:04 東からご来光。南に三原山、西にはまだ月が残っていた。快晴だ。

7:00 朝食。三原山が見える食堂でバイキング。種類が豊富。つい取りすぎて、いつもよりたくさん食べた。



8:48 ホテル前から三原山頂口行きのバスに乗車。岡田港から来るバスで、すでに大勢乗っていて座れないところに、ホテルから 30 人ぐらいの団体といっしょに乗り込んだので、ぎゅうぎゅう詰め状態となった。

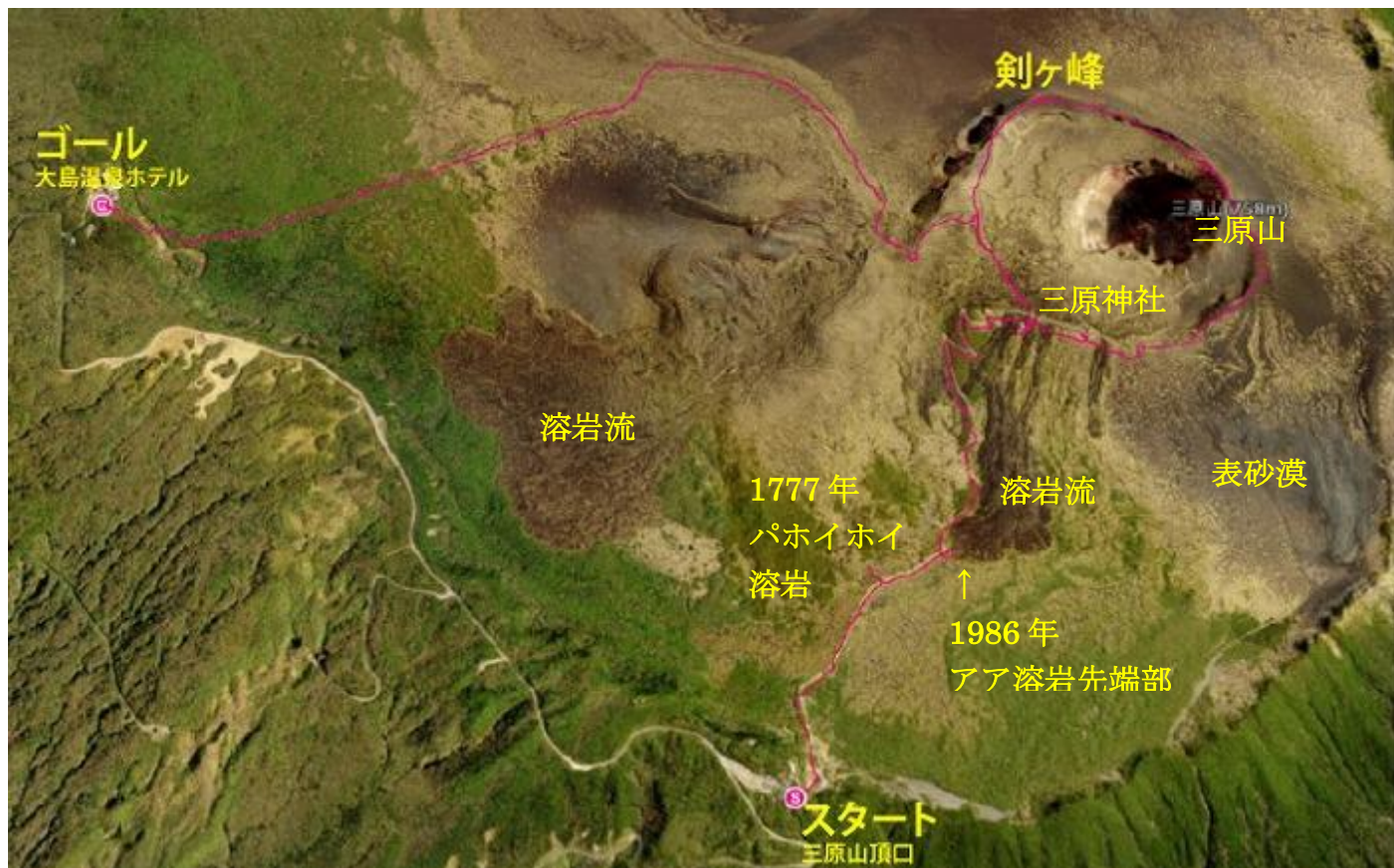
およそ 10 分ほど揺られて三原山頂口着。



9:06 三原山をバックにスタート写真。



本日の GPS 軌跡。



先週の吉松さん・文さん・石井さんの熱海乗船チームは、右手の表砂漠を経由するルートで登った。  
我々は溶岩流に沿って整備された遊歩道で登る。三原神社まで舗装された観光コースで、最短距離だ。



高低差は 300m 前後、特に危険箇所もない超初心者向けハイキングである。



三原山頂口からちょっと下って平坦な舗装道を歩く。





ところどころに火山弾よけのシェルターが設置されている。



三原山は過去何回も噴火が繰り返されている。「[パホイホイ溶岩](#)」の標識があったのでちょっと寄り道。



遊歩道脇にこの植物がたくさん生えていた。[オオバヤシャブシ](#)というらしい。

さらに進むと、1986 年溶岩流の先端部があった。先のパホイホイ溶岩に対し、アア溶岩というそうだ。





溶岩の先端部に登ってみた。



天城山



その後は山頂へのジグザグの急な登りとなる。  
伊豆半島の天城山が見えてきた。



9:50 急坂を上りきったところ(標高 650m)  
に三原神社がある。



1986 年の溶岩流は、不思議なことに山頂の社殿を避けるように流れを変え、社殿すれすれをかすめていったとされ、霊験あらたかなパワースポットになっている。



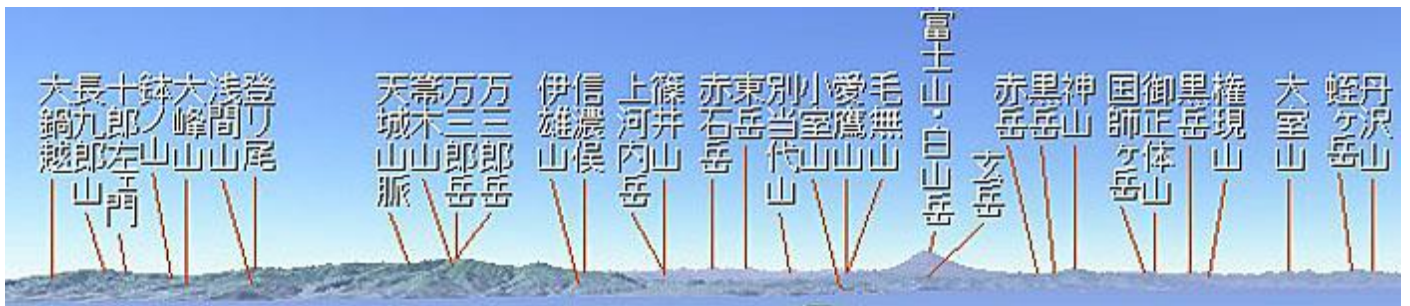


近くには展望台がある。1 階はトイレだ。

展望台から北西方向の伊豆半島を望む。



シミュレーションでは以下のように富士山、南アルプス、丹沢山なども見えるはずだが、残念ながら霞の彼方。先週の吉松さん・文さん・石井さんチームでは見えていた。今日は花粉か黄砂か湿気が多そうだ、



10:05 火口一周コースに入る。舗装から火山礫のざれ道となる。



ホルニトという、中が空洞な塚があった。



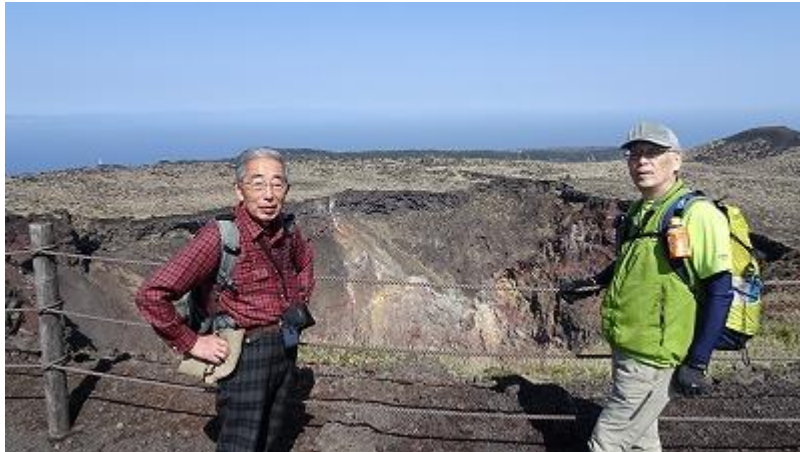
10:09 表砂漠コースとの分岐。先週のチームは表砂漠から登り、ここから火口一周コースに合流している。







緩やかな上り坂。  
 ここは風当たりが強い。  
 昨日、風で帽子を飛ばされた堀さんは  
 用心して帽子をとって進んだ。



10:29 三原山山頂中央火口。  
 この上の三原新山が最高点 758m だが、  
 立ち入りはできない。  
 地面の動きを検知する GPS 装置があった。



**三原山山頂中央火口**  
 Mt. Mihara summit pit crater

この火口は噴火のたびに形や大きさを変えてきました。1986年の噴火では溶岩が火口を埋め立てましたが、1年後の爆発的噴火で陥没し、お椀型の火口が再生しました。その後、火口の壁の崩壊が進み、現在は直径約350m、深さ約200mの大きさになりました。

This crater changes in shape and size with each eruption. Lava filled the crater during the 1986 eruption, but it collapsed in an explosive eruption a year later, recreating a bowl-shaped crater. Since then, the crater wall has collapsed and now has a diameter of about 350 m and a depth of about 200 m.

山頂中央火口  
Summit pit crater

1986年割れ目噴火 火口列  
1986 fissure eruption craters

火口壁の最上部にあるのは1986年の噴火のときの溶岩です。溶岩が冷え固まるときに縦にひび割れたため、たくさんの柱が並んでいるように見えます。

At the top of the crater wall is the lava from the 1986 eruption. The vertical cracks formed when the lava cooled and solidified, make this look like a line of pillars.

1987年11月の陥没直前の中央火口の様子（北東上空から撮影）  
 The pit crater just before the fall in November 1987

地下のマグマで水が温められ、火口の底や周りから白い湯気が上がっています。  
 The water is heated by underground magma, and white steam is rising from the bottom and surroundings of the crater.

富士山と同様に、この火口には水が溜まっておらず、火口湖にはなっていない。

降った雨は地下に浸透し、どこかから流れ出しているのだろう。



中央火口から剣ヶ峰を目指す。  
 この登りは、先週のチームが烈風で飛ばされないように、柱やロープにつかまりながらなんとか通過したところだ。  
 今回は、先ほどまで強かった風はおさまってきていて、難儀することはなかった。



10:40 剣ヶ峰（749m）。コースの最高地点。風は多少あるものの、ザックにカメラを置いてセルフタイマーで撮ったがカメラが吹き飛ばされることはなかった。



中央火口をバックにもう一枚。

下山に入る。噴煙が上がっている側を通る。

巨大なスピーカーがあった。噴火の兆候があるとこれで危険を知らせるのだろう。



ざれた道を下っていく。  
遠くにスタートした山頂口の白い建物が小さく見えている。





11:00 大島温泉ホテルへの分岐。  
ホテルに向かいかけたが、三原神社の方に  
フォトスポットで「ゴジラ岩」があったの  
を思い出し、時間にも余裕があるので、そ  
れをめざして三原神社方向に寄り道。



これがゴジラ岩。三原神社の手前にあった  
と思ったが、三原神社のすぐそばで、結局  
火口の周りを完全に一周した。



しかし、フォトスポット以外でも、ゴジラ  
に似た岩はあった。  
他に、犬やウサギや、ゴリラに似た岩が、ご  
ろごろしていた。



再び大島温泉ホテルの分岐まで戻り、大島  
温泉ホテルを目指す。  
バックは下りてきた三原山。





11:43 裏砂漠への分岐。大島温泉ホテルまでジオ・ロックガーデン経由であと 2km。



この辺りがジオ・ロックガーデン？



このルートは火山地帯～森まで植生の変化が楽しめる。ホテルに近くなると林になり、椿なども増えてくる。



12:17 めでたく大島温泉ホテルにゴール！





温泉に入りたかったが、日帰り入浴は 13 時から。それまでホテルの前の庭のテーブルで軽い昼食。

12:50 ロビーに行って日帰り入浴を申し込んだら、もう入っていいとのこと、即お風呂場へ。

日帰り入浴は料金 800 円のところ、我々は前日の宿泊客だったので 500 円。



温泉に入って汗（といっても楽ちんコースだったのであまりかいてないが・・・）をさっとながし、露天風呂から三原山をまぶたに収め、30 分で出た。

というのも港行きのバスはホテル発 13:47 分。

早めに温泉に入れてくれたので、余裕で間に合った。

朝の山頂口行きのバスはぎゅうぎゅう詰めだったが、帰りは増発便を出してくれたので岡田港まで座って乗れた。

14:05 岡田港着。ジェット船の出港時刻は 15:10～。1 時間あるので港前の食堂で生ビールで乾杯！名物のくさやの干物を焼いてもらい、あしたばの天ぷら、ラーメンで打ち上げ。



15:10 発、館山経由・竹芝桟橋行きのジェット船に堀さんと私が乗船。

池戸さんは

15:30 発、久里浜経由のジェット船で帰途に就いた。

当初の計画では 3 月 2・3 日だったが、我々の竹芝桟橋からの船は高波で引き返し、大島に來れなかった。今回の 10・11 日は、他の客のキャンセルで宿に空きが出たところをすかさず押さえて実現したりベンジ。先の 2・3 日で來れた熱海からの 3 人組は予定通り実行できたが、三原山は烈風で難儀したとの情報を加味し、10 日は山頂口に着いたらガス・強風だったため予定を急遽変更。10 日を椿祭り見物にして三原山を 11 日にしたのが大正解。帰りに温泉にも入れて 120% 楽しめ、実に充実した二日間でした。お疲れさまでした。